

あなたの信じる神様ってどんな方？

おはようございます。今日は三位一体のお祝いの日ですね。ちょっと質問させていただきます。皆様が信じている神様は何人いらっしゃいますか？

そうですね。一人ですよ。それでは信者でない日本人に「神様って何人いるの？」と聞いたらどう答えると思いますか？「数えきれないですよ」と答えるのではありませんか。あらゆる文化の中には宗教的な要素がしみ込んでいます。ですから文化というものには宗教なしには考えられません。日本の伝統的な文化、宗教的な心を考えてみますと数えきれないほどの神たちがいます。信者でなくて日本の文化の背景の中で育った人々にとっては、カトリックのイエスという存在も西洋から来た一匹の神にすぎないかもしれません。このような育った環境の影響によってキリスト教をたやすく受けられるかそうじゃないかが決まるんじゃないかと思います。日本では神社でも神様と言います。その中ではキツネも神になるしカラスも神になります。カトリック教会でも神と言います。キリスト教の信仰を全然知らないで、子供の時から高校生まで育ってきた人にとってイエスという人物は「死んで神になった人じゃないの」と言うだけの存在かもしれません。

昔、日本でも、カトリック教会を“天主教会”と言っていた時代がありました。天主、天の主(ぬし)、ですね。ですから天主と言えば一般的に言う神と区別できて、全智全能の一番力ある神を信じているのだという感じがしますが。ある時天皇がいるのになぜ天主がいるのかと反対されて“天主”という言葉が使われなくなったという説があります。

昼間や夜、この聖堂に祈りに来る人が結構います。そういう人の中には信者でない人もいます。カトリック信者だと思って話しかけてみたら「私は日本の宗教しか持っていません」と答えられたことが何度かあります。この方達にとってはすべてが神だから何処で祈るのも違和感がないのでしょう。それで自然にこの聖堂に入って祈るのでしょうね。

さあもう一回質問させていただきます。信者でない人に「あなたの神はどういう方ですか」「イエスとはどういう人物ですか」と聞かれたらどう説明しますか？「聖母マリアって神なの？」と聞かれたらどうですか？「あなた方は何を信じていますか」と聞かれたら？ある意味でとても基本的で根本的な質問です。しかし私達はその答えをどの位準備しているのでしょうか？

今日の福音でその答えが出ているんじゃないかと思います。『神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである』(ヨハネ3章16節)

今日は三位一体の祝日。三位一体について私も説明できません。おそらく、三位一体の大祝日になると世の中の司祭たちは皆ストレスをもらっていると思います。それは、三位一体についてはきはきた説明が出来ないからです。理論的に説明しようと思っても納得させるのは無理です。三つなのに一人。私達の理性では理解できません。しかし私達は体験としてその中身を伝えます。もし「神様ってどんな方？」と聞かれたら、「今質問しているあなたも愛されている、あなたのために自分の息子さえ犠牲させることが出来る方。私達がその方を信じたら絶対滅びない。そして私達が最終的に求める永遠の命、終わりのない命を得られるのです」と答えて下さい。

このような答えが自然にできるためには私達にそのような信仰ができていなければなりません。私達が信じる神様は愛そのものです。その愛は自分のただ一人の子供を私達の罪のために犠牲にされる程の愛で、計り知れないほどの大きな心を持っている神です。敵の大將の首を切って、その復讐が怖くてそれを神として祭って拝むというような神ではありません。私達が信じる神はすべての神々やお化

けさえ治められる、全智全能の一番力ある神です。このような強い心がなければ些細なことにも影響されてしまいます。少なくともいろいろな物に引っ張られて、まっすぐに自分に与えられた道を歩きにくくなります。

三位一体の難しい神学的な理解は出来ないかもしれませんが、しかし、三位一体の神様がどういう方であるかを私達は知っています。それは祈りと信仰的な体験、特に神様との出会いの体験を通して可能なことだと思います。

御父、御子、聖霊、それぞれのなさる役割が違います。しかしこの三つの存在は一人です。一人である神様によって創造された私達もその神に似た者となる努力が必要です。神様は聖なる方ですから、私達もできるだけ聖なる者になる努力も必要です。又、神様は三つの存在が一つであると言われるぐらい一致しています。私達も一致しようとする動きが必要です。三位一体の神秘は祈りの中で愛の実践の中で体験できることではないかと思います。

最後に私事ですが、私の母が先週の火曜、13日に私と一緒に日本、太田に来ました。私が数年前に国を離れる時一番気になったのは母を一人残して来ることでした。いつも母のことが心配になっています。毎日母のことをミサの中で思い出しています。その母と20数年ぶりに旅行しました。司祭になってからは初めてです。そして母の幼子のような笑い方を見ると幸せに感じました。しかし年のせいで背中丸くなり、歩く時膝が不便そうな様子を目にするともどかしい思いもします。ですが今週の金曜、23日に韓国に帰るので、それまでできるだけよくケンカしながら笑いながら楽しく過ごしたいと思っています。

皆様に伝えたいことは、「生きているうちに、良くしておくようにして下さい」ということです。自分のために祈ってくれている人のために一生懸命やって下さい。夫婦、親子、兄弟・・・私が関わらなければならないすべての人のために最善を尽くして下さい。若者たち、ご両親が生きておられたら毎日電話して下さい。「電話代がかかる」などと言わないで、何よりも大事なこととして考えてください。

社会がますます深刻に淋しくなります。個人主義的になって兄弟の間でもいろいろなことで別れています。兄弟の意味とただ知合いの意味が区別できないような世の中になっています。もし意識があるなら意識のある私から電話をしたり手紙を書いたりしましょう。いくら一生懸命にやっても親がいなくなったら後悔するのが人間です。出来るだけ後悔する心を減らすためにも、ご両親によくしてください。そして、皆様のお祈りの中でも絶対忘れてはいけないのが親の為の祈りだと思います。

ありがとうございました。